

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4645
26年5月15日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

依然インフルエンザを大きく上回る 死亡者数と重症化リスク

おはようございます。
2023年5月に新型コロナウイルスが5類感染症へ移行してから3年が経過し、世間では「コロナは終わった」という雰囲気定着しました。

マスクを外した日常が当たり前となり、現在は東京都を中心とした麻疹の急増、クルーズ船におけるハンタウイルスなどの新しいニュースに関心が移っています。

しかし、統計データを見れば、新型コロナウイルスは決して「過去の病気」ではなく、依然として社会に大きな影響を与え続けています。

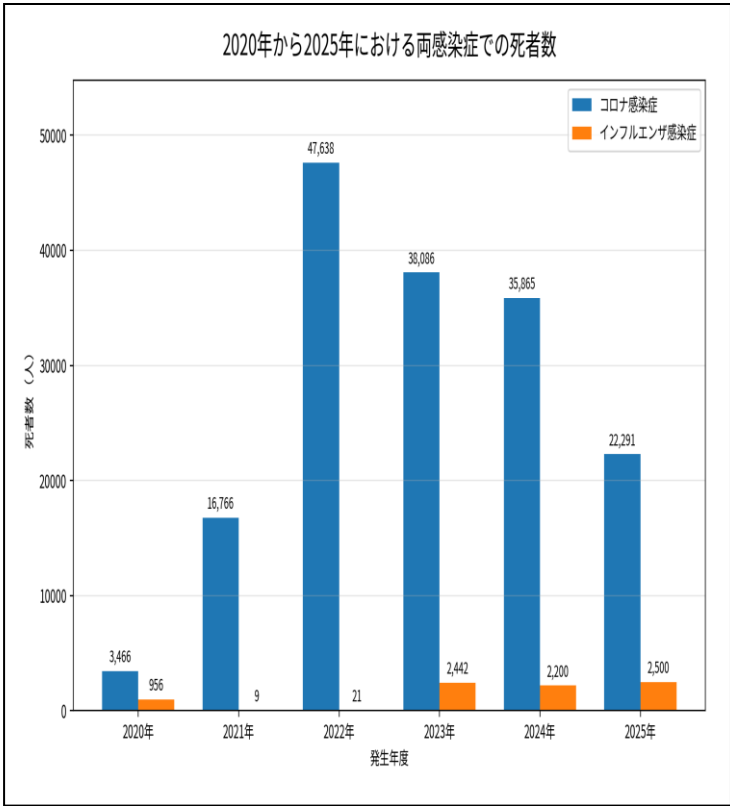
「ただの風邪」と軽視されがちな新型コロナウイルスですが、その実態はインフルエンザよりも遥かに手強いものです。2025年の新型コロナウイルスによる死者数は22,291人に

上りました。一昨年の約3万5千人からは減少したものの、同年のインフルエンザ死者数(約2,500人)と比較すると約9倍近い規模です。日本人の死因別順位でも第8位に位置しており、特に高齢者にとっては今なお警戒すべき疾患です。

重症化リスクが低いとされる若年層や健康な世代においても、深刻なのが「後遺症」のリスクです。医学的な知見によると、感染者の約10%がみられ、若者でも数%が10%が3カ月以上の

症状に苦しんでいます。特に「強い倦怠感」によって起き上がれなくなるケースが多く、専門外来を訪れる患者の7割は女性、年齢の中央値は45歳という、社会の第一線で活躍する「働き盛り」の世代。肥満や基礎疾患の有無、急性期に十分休めなかったこと、ワクチン接種歴がないことなどが、後遺症を長引かせる要因として指摘されています。

2021年9月に佐世保郵便局で配達員の間で集団感染が発生しました。約70名の配達員が出社



コロナ感染症 完治までの期間

3つのパターンがあると考えられる

1. 段階的快方(約60%)：感染から12ヶ月~24ヶ月(1~2年)かけて、ゆっくりと元の状態に戻っていくグループ。
2. 一進一退(約30%)：良くなったと思ったら、ストレスや運動で再び悪化する(クラッシュ)を繰り返すグループ。
3. 慢性化(数%~10%)：2年以上経過しても症状が固定化し、自律神経失調症(POTS)や慢性疲労症候群(ME/CFS)のような慢性疾患へ移行するグループ。

多くの方は数ヶ月から1年以内に大幅に改善しますが、一部の人は数年単位の長期戦になることがあります。

不能になり、配達業務が一時全面的に停止に追い込まれた事例は全国初として大きく報じられました。佐世保局には長中局からも応援者が駆け付け、配達業務の正常化に向けて尽力したことは記憶に新しいと思います。自らの感染の恐怖の中、派遣された皆さんに頭が下がる思いでした。私たちは郵便事業の根幹である郵便配達業務が停止に追い込まれたこの事態を忘れてはなりません。社会インフラを守るためには、個々の感染予防が不可欠です。



新型コロナウイルスは現在、夏と冬の年2回、大きな流行の波が来る傾向が鮮明になっています。全ての健康な若年層にとつては風邪に近づきつつあっても、社会全体で見れば、依然としてインフルエンザ以上に手強い相手として、賢く付き合っていく必要があります。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。めいめい、均等待遇を。なげない差別！

